国家戦略特区ワーキンググループ ヒアリング（議事要旨）

（開催要領）

- 1 日時 令和6年5月17日（金）17:49～18:22
- 2 場所 中央合同庁舎8号館8階特別中会議室（オンライン会議）
- 3 出席

自見 はなこ 内閣府特命担当大臣
（沖縄及び北方対策、消費者及び食品安全、地方創生、
アイヌ施策）

＜WG委員＞

座長	中川 雅之	日本大学経済学部教授
座長代理	落合 孝文	渥美坂井法律事務所・外国法共同事業 プロトタイプ政策研究所所長・シニアパートナー弁護士
委員	阿曾沼 元博	順天堂大学客員教授、医療法人社団滉志会社員・理事
委員	安藤 至大	日本大学経済学部教授
委員	安念 潤司	中央大学大学院法務研究科教授
委員	岸 博幸	慶應義塾大学大学院教授
委員	堀 天子	森・濱田松本法律事務所パートナー弁護士
委員	安田 洋祐	大阪大学大学院経済学研究科教授

＜自治体等＞

木村 敬 熊本県知事

＜事務局＞

市川 篤志	内閣府地方創生推進事務局	局長
河村 直樹	内閣府地方創生推進事務局	次長
安楽岡 武	内閣府地方創生推進事務局	審議官
菅原 晋也	内閣府地方創生推進事務局	参事官
正田 聡	内閣府地方創生推進事務局	参事官

（議事次第）

- 1 開会
 - 2 議事 半導体関連産業の拠点形成と地方創生の先進地域の実現に向けて
～特区を活用した国家戦略の早期実現と地方創生～
 - 3 閉会
-

○菅原参事官 それでは、お待たせいたしました。ただいまより、国家戦略特区ワーキンググループヒアリングを開始いたします。

本日は、自見内閣府特命担当大臣が御参加の下、連携“絆”特区に関する自治体ヒアリングといたしまして、熊本県の木村知事に御出席いただいております。

本日のヒアリングの資料及び議事につきましては、6月上旬に想定されております、国家戦略特別区域諮問会議で連携“絆”特区について審議されるまでの期間を目途としまして、非公表とさせていただきたいと考えておりますが、中川座長、よろしいでしょうか。

○中川座長 了解しました。

○菅原参事官 ありがとうございます。

それでは、以降は、中川座長、よろしく願いいたします。

○中川座長 皆様、お忙しいところ、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

早速ですが、本日のヒアリングを開始したいと思っております。

本日は、国家戦略特区として目指す取組の全体像や意欲などにつきまして、熊本県の木村知事から御説明をいただきたいと存じます。

木村知事、早速でございますけれども、よろしく願いいたします。

○木村熊本県知事 皆さん、こんにちは。熊本県知事の木村でございます。

本日は、自見大臣、また、中川ワーキンググループ座長を始め、多くの先生方に、こういう形で私どもの思いを聞いていただく機会を設けていただきまして、誠にありがとうございます。

熊本県から説明をさせていただきます。

まず、熊本県の提案は、世界的な半導体企業、台湾のTSMCが日本初の工場を熊本県に進出することを受けまして、半導体産業、関連産業の拠点形成、さらにはTSMC進出を契機に、熊本県が地方創生の先進地になっていく上での、礎となる重要な提案だと思っております。

今、御覧いただいている画面 I にありますように、九州はかつて昭和の後半、昭和60年代頃、世界の半導体の生産拠点、断トツ1位の6割ぐらいのシェアを日本が握っていた頃に、シリコンアイランド九州と呼ばれて、多くの半導体関連企業が存在しました。

そして、その企業は、まだ今も残っておりまして、数多くの半導体企業が、九州に立地しています。

そして、熊本は地政学的に九州の中心に位置しておりまして、こうしたサプライチェーンの存在または地政学的な優位性が、TSMCの九州・熊本への進出の基盤となったものと思っております。さらにそれを受けて、今回のTSMCの進出を機に、熊本県には多くの半導体関連企業の進出と投資の拡大が進んでいます。

こうした一連の進出によって、経済波及効果というものにつきましては、色々なデータはあるのですが、九州フィナンシャルグループの調査で熊本県内では、2022年から10年間で6兆9000億、九州全体では、これは九州経済調査会の調査ですが、2030年までの10年間で20兆、そのような推計もされています。

ともかく今回のTSMCの九州・熊本への進出は、日本の経済安全保障の一環として、国からも1.2兆円の国庫補助を伴う大きな国家プロジェクトになっています。

これを成功させるためにも、半導体関連企業の集積に伴う課題の解決に取り組んでまいりたいと思っています。

また、地方創生推進事務局の皆様方におかれましては、昨年度、デジ田の交付金に新たにインフラ整備推進タイプということで、本県の半導体産業の集積強化に絡めた整備につきまして、画面の一番下になりますけれども、約30億円の配分をいただくなど、改めて感謝しておりますし、いわゆる地方創生の中でも、この特区をさらに絡めて発展させていきたいと思っております。

次のページに移らせていただきます。

熊本県の目指す姿ということでして、熊本県は、外国人材の迅速な受入れ、今回提案させていただいている内容ですけれども、これを通じまして、半導体関連産業の集積に向けた諸課題を解決していくということにございます。

そして、今回の提案の中には、その核は、やはり外国人材の受入れ加速化でして、一番左の中に箱がありますけれども、今回のTSMC進出で、既に外国人材が、昨年の令和5年の10月時点で1年前と、たった1年で25.5%増という急激な増加につながっています。

これを外国人材の迅速な受入れを可能にすることで、TSMC進出の効果を県内全域や九州全域に実現していったら、経済のイノベーションをしていく、そして、新生シリコンアイランド九州をつくる礎を熊本側から用意して、そして、これを日本の経済安全保障、将来的には日本の経済産業競争力の向上を熊本から支えていきたいと思っております。

特区の指定をいただいた暁には、それを契機に、日本の産業競争力の強化、地方創生の実現に向けて、本県から様々な規制改革の提案もさせていただきたいと思っております。

次のページをお願いいたします。

今回の提案の具体的な内容をⅢ番で述べております。

今回の提案自体は、1項目だけのシンプルな提案です。外国人の半導体関連人材の在留資格の交付審査における特区の申請でございます。

入国管理庁が、実質的に審査するものの一部を、県が先行して実施することによりまして、在留資格の獲得の円滑化、審査期間の短縮化かつ明確化を図りたいと思っています。

やはり企業も人材不足解消のために、外国人材に非常に期待しています。今回の提案によって円滑に就労ビザが取得できる環境を整備したいと考えております。

続いて、お願いいたします。

Ⅳ番で推進体制ということで、特区に指定された暁の熊本県の推進体制について整理しています。

本県のポイントは、こうした重要プロジェクトの推進に当たっては、知事である私が自らをトップとした部局横断型の本部組織を設けています。これにつきましてしっかりと、私は、実はこの4月に知事に就任したばかりですけれども、副知事として在任していまし

た当時から、この半導体産業の集積強化本部というのを、知事をヘッドに横串を刺してやっております、さらにこの体制を強化していきたいと考えています。

また、真ん中のプロジェクトの推進というところですけども、これに当たっては、経済団体や大学、市町村ともしっかりと連携しております。

特区に指定された暁には、県庁内だけではなく様々なアクターと連携しながら、日本の産業力強化、地方創生の実現に向けて、規制改革の更なる提案も含めて、果敢に取り組んでいきたいと考えております。

最後のページになります。

指定基準との関係で、簡単に私のほうから最後にもう一言申し上げさせていただきたいと思います。

指定基準のア) 区域内における経済的社会的効果につきましては、先ほどの各シンクタンクや銀行の試算のとおり、経済効果が莫大であります。

また、実際、今、TSMCの進出によって、台湾出身者などの外国人材の県内の流入が増加する中で、企業が必要とする外国人材の受入れという大きな社会的な効果もあります。やはり世界に開かれた日本、そして世界に開かれた熊本が、これからの熊本、日本が生き残っていくための鍵だと思っています。そのためにも、この特区の指定は非常に重要なポイントなのかと思っています。

指定基準のイ) 国家戦略特区を超えた波及効果は、先ほど申し上げたように、今回の熊本で指定をされますけれども、この外国人材の受入れの迅速化によって、シリコンアイランド九州、九州全体でのサプライチェーンによりよい影響が及ぶものと思っています。そして、日本の経済安全保障にも貢献するものと考えています。

指定基準ウ) プロジェクトの先進性・革新性につきましては、本県が目指す国内最先端の半導体製造拠点の形成と拠点形成効果を波及させた地方創生ということで、口幅ったい、私が言うのは申し訳ないのですけれども、日本の経済安全保障への貢献という先進性、そして、熊本発の経済イノベーションの実現という革新性、双方の基盤となります。

指定基準エ) の地方公共団体の意欲・実行力につきましては、先ほど来申し上げているところでありますけれども、しっかりと外国人材の受入れに当たって、円滑な受入れ体制を既に整えております。市町村とも連携した外国人の生活サポート、また、県が旗振りをしまして外国籍の子どもの教育環境の整備なども実現しているところでございます。

指定基準オ) プロジェクトの実現可能性、これは、当然、先ほど申し上げました県の推進本部、私がヘッドになった推進本部を中心とした取組に加えて、市町村とも常日頃から連携して取り組んでおりますので、オール熊本で強力に推進していきますので、実現可能性は極めて高いと思っております。

指定基準カ) インフラや環境整備、本当のハード面のインフラについては、先ほど申し上げたデジ田のインフラ交付金で進めているところでありますけれども、それ以外のソフト面についても、生活サポート、教育環境の整備に加えて、例えば、熊本商工会議所が中

心となって、経済団体独自の実は台湾を中心にした外国人のインターンシップ事業などの受入れ体制ももう既に進んでいます。そうした環境は整っているものと思ひ、今回の熊本県の提案は、国家戦略特区の指定基準を十分に満たしていると思ひますし、また、指定をさせていただいた暁には、今回の指定内容、規制改革内容を超えて、様々な新たな分野においても、規制改革の提案を行ってまいりたいと考えております。

私もかつて地方創生推進事務局に総務省から出向させていただいて、特区制度が非常に厳しい時代に、まさに中川座長とかと御一緒しておりました。しっかりと今回の指定を勝ち取って特区制度のさらに意義を、熊本県内、日本中に広げていきたいと思ひます。

どうかよろしくお願ひ申し上げます。

○中川座長 どうもありがとうございました。

それでは、今の知事からの御説明を受けまして、まずは、自見大臣から御発言をいただければと存じますが、いかがでしょうか。

○自見内閣府特命担当大臣 こんにちは、自見はなこでございます。

改めまして、木村知事、御就任おめでとうござひます。副知事時代より大変地方創生に對しまして様々な取組いただいておりますことに、ここで改めて御礼を申し上げたいと思ひます。

○木村熊本県知事 ありがとうございます。

○自見内閣府特命担当大臣 ありがとうございます。

さて、今般の連携“絆”特区に係る提案募集に際しまして、熊本県から地域課題を解決するための大変意欲的な御提案をいただきましたことに、この場を借りて感謝申し上げます。

提案をいただきまして以降、内閣府におきましては、規制、そして制度改革の実現に向けまして、ヒアリング等によりまして、本日御出席の各委員の御指導のもと、各省庁と議論を行っていただいております。

委員の先生方におかれましては、この短い期間で集中的な御審議を賜り、心から感謝申し上げます。

そうした議論の結果でございますが、熊本県からいただきました御提案に関しまして、半導体関連産業における外国人材受入れの円滑化に向けた措置が、国家戦略特区における規制の特例措置として実現する方向で調整が整っていると承知をしてござひます。

そして、本日、木村知事から熊本県における地域課題や、あるいは国家戦略特区としての取組の全体像、意欲について御説明をいただきまして、特区としての取組は、地域が抱える課題に根差した極めて重要な取組だと認識をいたした次第でござひます。

このあと、先生方からも御質問、御指摘がありますが、まず、私からは2点質問をさせていただきます。

今回の取組でござひますが、継続的にしっかりと取組を行っていただくことが、全国への普及に向けて大変重要なポイントであると考えてござひます。

そのためになります。1点目、今回の提案内容以外にありますが、県として国家戦略特区として取組を進めていく御意向のある分野や課題は何であるかといった点。

また、2点目ですが、それらを実現するための体制についてお伺いできればと思います。よろしくお願いいたします。

○木村熊本県知事 大臣、過分なお言葉をいただきまして、誠にありがとうございます。

もう質問内容に直接、直球でお答えさせていただきますが、やはり今回指定を受けさせていただければ、外国人材、家事人材の受入れにしてもそうですし、創業外国人材、私も特区室にいた頃に始まった創業外国人材の促進などは、是非チャレンジしていきたいと思っておりますし、ともかく、それ以外にも農業とか教育とか、様々な既に設けてある特区のメニューを積極的に取り組んでいきたいと思っております。

また、2点目の実施体制につきましては、かなりしっかりとしたものがございまして、特に、私は鍵を握っているのは熊本大学だと思っております。半導体の基本は企業での受入れ等々が軸になりますけれども、熊本大学で新しく半導体関連の学部が新設されました。

これにつきましては、内閣府の皆さん、地方創生の絡みでの地方大学の地方創生交付金を入れていただいております。非常に今、TSMCのみならず、日本で言えば、ソニーとか、東京エレクトロン、そうした企業から逆に大学に派遣して、共同で研究開発を進めるということが進んでいます。

そうした中に、さらにこういう外国人材というニュアンスが加わることによって、県内の企業ともさらに連携したイノベーションが起きていくと思っております。

推進体制は県庁内にとどまらず、市町村、経済団体、そして教育機関も含めて、しっかりと整えてまいりたいと思っております。

○中川座長 自見大臣、よろしゅうございますでしょうか。

○自見内閣府特命担当大臣 はい、ありがとうございます。

○中川座長 それでは、続きまして、委員の皆様からも御質問、御意見を伺えればと存じますが、いかがでしょうか。

それでは、落合委員、お願いいたします。

○落合座長代理 木村知事、どうも御説明ありがとうございます。

非常に意欲的な取組だと思っておりますし、まさしく半導体産業を中心として構成されているということは、まさに国家戦略というためにふさわしいテーマを選んでいただいていると思いますので、非常に素晴らしい内容であると感じております。

一方で、特区として指定をしていくという中で、やはり重要なことというのが、提案の継続性と言いますか、特に規制改革の具体的な提案をなるべく次回以降も多く出していけるような形ということが、一つ、とりわけ重要なことになるように思っております。

そういった意味では、本日御説明いただいている中でも、例えば、外国人材の受入れだったり、生活に関する部分などについては、例えば、金融資産運用特区関連では、様々な手続、外国人向けの手続の合理化だったりですとか、企業誘致に関する御提案なども多数

金融投資に手を挙げていただいている自治体からもいただいていたりにしております。そういったテーマについても、是非熊本県から新たなテーマをととも思いますし、また、半導体産業がある場所に、さらにそのほかの産業集積もしていくということも、もちろんあるでしょう。北海道におかれては、チーム北海道とおっしゃられていますけれども、九州においても近隣県などと広域連携を進めたりする中で、さらに様々な産業に関する展開だったり、それに特に関連するような規制改革も、是非持ってきていただけないかと思っております。今後の取組の一層の強化と知事の意欲、どういう形でお関わりいただけるかというか、元々知事御自身が特区で働いておられたということもありますので、一番リーダーシップを、多分、一番よく熊本県の中でも御存じだと思いますので、どうリーダーシップを発揮していただけるかもお伺いしたいと思っております。

以上です。

○中川座長 ありがとうございます。

木村知事、すみません、ちょっと御負担をおかけしますけれども、時間も限られておりますので、一通り委員のほうから御質問、御意見を頂戴して、まとめてお答えいただけるような形にしたいと思います。

○木村熊本県知事 はい、どうぞ。

○中川座長 すみません。

それでは、安藤委員、堀委員、阿曾沼委員の順番にお願いいたします。

○安藤委員 日本大学の安藤です。よろしくお願ひします。

私からは1点だけ質問をさせていただきます。半導体関連産業の拠点形成、これは非常に注目されている取組だと思います。

その際に、外国人材の受入れが重要だということもよく分かります。ただ、3ページにございますように、多文化共生がうまく行くということは、とても欠かせないことと感じています。外国人の方の生活や居住、また、周辺住民との交流、受入れなどを含めて、どのような準備や対応をなさっているのかということに関心があります。

特に、外国人の生活サポートや教育環境整備など、受入れる対象となる外国人労働者の方については、丁寧に議論されているように、今、感じたわけですが、受入れる側の住民の皆様が、海外からいらっしゃる皆さんと共生していくということについても、十分に理解がないと、これはうまく行かないのかなと感じております。

という観点から、住民の皆様が、今、この半導体関連で外国人の方が多くいらっしゃるということについて、どう受け止めているのか、また、不安や懸念をもし持っているとしたら、それに、今、県としてどのように説明をしたり、納得感の形成を行っているのか、このあたりを教えていただければと思います。よろしくお願ひします。

○中川座長 堀委員、お願ひいたします。

○堀委員 御説明ありがとうございました。

ただいまの御提案の木村知事からの非常に意欲的なお話をお伺いいたしまして、この計

画が進めば、地域発の半導体、世界的な企業が多く立地している九州、そして熊本県において、さらに産業が進んでいくという期待を持って伺っております。

私からの御質問は、2ページ目にありますとおり、九州がIC、集積回路の国内の44%のシェアを誇る生産拠点であるということで、たくさんの企業様が既に出展しているところ、こちらにおいて、TSMCの進出はさらに拍車をかけて、このプロジェクトとして進むという契機になっていると期待を持って伺いました。

現状でも、外国人材の方々が熊本県にいらっしゃるということが、年間どの程度のペースで、人数規模で進んでいるのかということと、この規制改革の提案が実現されれば、このペースが、人数、そして速さという観点で、何年規模でどのぐらいの人材が入って来られるという御期待があるのか、そのあたりの見通しが、もしあれば伺いたいなと思っております。

また、これは少し先のお話になるかと思えますけれども、やはり生活者で移住されるという場合には、御家族やお子様のサポートも非常に大事だなと思えますし、場合によっては学生の方々がいらっしゃるということで、学生ビザについての御提案というのも将来的にはあり得るのかなと思っております。

既にエンジニアであるとか、働き手という方々を呼び込むほかに、どういう方々を呼び込まれたいという御期待があるのか、その点についても、もし、今、御計画、期待されている部分があれば、教えていただければと思いました。

以上です。

○中川座長 阿曾沼委員、お願いいたします。

○阿曾沼委員 木村知事、大変素晴らしい御提案ありがとうございます。

私事で申し訳ございませんが、曾祖父が熊本城に籠城しておりましたので、小さいときから、熊本によく連れて行かれて、大変身近に感じております。ありがとうございます。

一つコメントでございます。外国人材の増加に伴って、やはり外国人の医療の問題というのが非常に大きくなって来るのだらうと思えます。

現実に中々受診ハードルが高くて受診タイミングが遅れることによって、悪化を招いたりするようなことが指摘もされています。この様なことが無いように、または、外国人医師の採用とか診療といったものも、今後ご検討頂ければと思えます。その部分での今後の規制改革の御提案などがあれば嬉しく思います。よろしくお願ひしたいと思えます。

それから、人と物との交流、海外との交流が非常に大きくなりますので、熊本空港は国際化されておりますけれども、今後、更なる国際化を推進していく上で、空港に関わる何か規制の改革というものの御提案が、もしあれば、お聞かせいただければと思っております。よろしくお願ひいたします。

○中川座長 木村知事、申し訳ありませんけれども、よろしくお願ひいたします。

○木村熊本県知事 時間も限られていますので、手短に、ちょっと意を尽くしませんけれども、お答えさせていただきます。

まず、落合座長代理からお話がありました、これ以外の、例えば金融とか、そうしたものの特区は、喜んで検討していきたいと思えます。

実際、既に熊本県内の最大の地銀が台湾の有力な銀行と提携を結んだり、また、九州最大の福岡銀行グループは、台湾最大の中国信託、CTBCというところと提携を結んでいます。

実は、当初、経済産業省とか、私たちも想定していなかったところで民間同士の動きが始まっていますので、そうしたのを後押しできるような特区、金融・資産特区は、私も存じ上げていますので、ニーズを見定めながらどんどん取り込んでいきたいと思えますし、今回の場合は、半導体産業が一番急にニーズがあるものですから、そこを1点突破して全面展開していきたい、外国人材の受け入れる範囲をという形で思っておりますので、色々な様々な特区をこの場で担ってきたい。

また、人材の確保については、九州コンソーシアムという形で、九州全体で、今、実は人材の受入れをやっていますけれども、熊本のやり方がうまくいけば、当然福岡県とか、既に特区指定を受けているところも乗っかってくるのではないかと期待しております。

安藤委員からいただきました、多文化共生について、住民との連携は進めています。既に今回の半導体の推進本部を県庁の中に立ち上げた中に、生活サポート部会ということで、地域の住民の皆さんとどのように接点を持つか、例えば、台湾からお越しの方がほとんどですので、台湾語の住民の講座をやっている市町村が複数か所あったり、日本人向けの台湾語講座をやっているものがあったり、一緒になってイベント、お祭りとかをやっていく、またはTSMCの社員に向けての日帰りツアーを企画している観光協会があったりとか、色々な動きが起きていますので、それを県としてももしっかりサポートしていきたいと思えます。場合によっては、そういうのに使える県のチャレンジ補助金みたいなものも入れています。

3点目、堀委員からいただきましたことにつきましては、なかなか今後の半導体だけで行くとなると、半導体を含んだ製造業の外国人の労働者というのが、R4からR5、一昨年から去年にかけて、800人が1,700人ぐらいに倍以上増えていたりという効果はあります。

それで、これからも、ほとんどがそういう倍々ゲームに近いぐらいの勢いで来ておりますし、TSMCの第2工場となると、より先端半導体をつくる過程で、台湾でのサプライヤーをもっと入れていきたいという思いがどうもあるようですので、そうしたところにもつながると思えます。何人というものは、まだ分かりませんが、そうした動きが既に、半導体については、倍々ゲームで増えています。学生ビザ等々の動きも、それはいずれそういう形で出てくることあるかと思えます。

最後、阿曾沼委員、本当に御無沙汰しております、ありがとうございます。熊本と御縁があるとは知りませんが、大変失礼いたしました。

外国人の医療については、まさに非常に、これからTSMCの従業員のみならず、広がるという中で、医師会とかとも連携して、今、いわゆる三者電話みたいな感じで、通訳が医者と患者の間に入れるような三者通話みたいなものを実験的にやっていますが、今後、外国

人医師というものをどうしていくかということは、多分に課題になろうかと思っています。

既に介護人材などでの外国人の受入れが進んでいますけれども、もっとこういうのも広げていきたいと思っています。医師分野についてもしっかり検討していきたいと思います。

熊本空港の国際化につきましては、まさに今回のTSMCによりまして、これまで昨年の夏まで1便も飛んでいなかった台北路線が、既に週12便運航しています。ものすごい勢いで利用が進んでおりまして、やはり九州というのは、特に東アジアに開かれているところが重要ですので、今、ソウル、台北、香港の3路線が就航しましたけれども、できれば17路線まで広げたいという計画を、空港運営会社と思っています。国際線の利用者数も昨年度、過去最高値を超えましたので、しっかりと熊本空港の国際便の受入れ、また、国際貨物の受入れの環境も、今、整備を進めていますので、しっかりと空港の国際化に取り組んでまいりたいと思います。

すみません、手短ですが、以上でございます。

○中川座長 ありがとうございます。

委員の皆様、よろしゅうございますでしょうか。

どうぞ。

○落合座長代理 すみません、私のほうの質問が悪くて、金融・資産運用特区のほうに乗っていただきたいという趣旨に受け取っていただいた部分もあったかと思うのですが、必ずしもそれに限ったことではなく、ほかのテーマをということで申し上げようとしておりました。たまたま外国人というか、外国からの誘致という意味では共通するほかの区域からの提案で、そういう御提案もあったのでご紹介しつつお伺いしたものです。色々課題を見付けて御提案いただいている例もあるので、色々な関連するテーマを掘り下げて研究されていたりするのを見ていただいて、また、熊本からも別な形で、金融・資産運用特区にはもちろん全く限りませんので、新しい提案をいただければと思っておりました。

以上でございます。

○木村熊本県知事 分かりました。頑張ります。

○中川座長 よろしゅうございますでしょうか。

木村知事、自見大臣、ワーキング委員の皆様、ありがとうございます。

本日、木村知事から御説明もありました今回の熊本県の御提案は、自見大臣からも御発言がありましたとおり、地域の課題に即した重要な取組であると承知しております。

他方、本日の熊本県のプレゼンに関しましては、自見大臣及び各委員の皆様方から、今回の提案に限らない広がりを持った提案を継続して行っていただきたいこと、それから推進体制の深化をしていただきたいということ。

それから、木村知事から丁寧な説明がありましたけれども、TSMC関連の人材を受け入れる側の住民への適切な対応をお願いしたいという点。

それから、学生ビザという話がありましたけれども、多様な外国人材の受入れの検討、そういったものもお願いしたいという重要な指摘があったと承知しております。

熊本県におかれては、こうした指摘を十分に踏まえて、更なる取組を進めていただきたいと思います。

本日の特区ワーキングヒアリングを踏まえ、特区ワーキングとしては、熊本県の御提案に関し、さらに検討を進めてまいります。

ほかに御発言を求められる方は、いらっしゃいますでしょうか。

それでは、ありがとうございます。最後に、自見大臣から御発言をいただきたく、よろしく願いいたします。

○自見内閣府特命担当大臣 ありがとうございます。

木村知事、中川座長を始め、委員の先生方皆様、本当に短時間で素晴らしい論点を見いだしていただきまして、また、議論もそれぞれ深めていただきましたことを心から感謝申し上げます。

この連携“絆”特区であります。地域に共通の課題というものを抽出して、そして連携をすることで、その結果を全国に波及させると、こういう特区の性質がございますが、その中でも本日の熊本県の御提案、また、背景に関しましては、半導体産業は、入り口だということもございますけれども、一つの大きな製造産業の振興という面が動くその瞬間に立ち合わせていただいていると思っておりますが、その中で地域が抱えてくる課題も、おそらく急速に浮き彫りになっているという点から、大変議論に値する素晴らしいお話をさせていただいたと、議論を深めさせていただいたと感じてございます。

本日のヒアリングの結果を踏まえまして、ワーキンググループの先生方には、内容について精査をいただきまして、今後の戦略特区諮問会議に向けた検討をしっかりと進めてまいります。

改めまして、木村知事、中川座長、委員の先生方、本当にありがとうございました。

○木村熊本県知事 ありがとうございます。

○中川座長 自見大臣、ありがとうございました。

それでは、本テーマは、ここまでとさせていただきます。ありがとうございました。

○木村熊本県知事 ありがとうございます。よろしく願いいたします。

○自見内閣府特命担当大臣 ありがとうございました。